

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2018年9月2日（日）

主 題：「鏡から離れない人」

—祝福される秘決—

テキスト：ヤコブの手紙1章22－25節

はじめに

- ・世界どこに行っても、長年受け継がれてきた宗教・伝統・慣習等があります。人はそれを祭儀として大切にし、後世の人たちに教え伝えてきました。
たとえば、キリスト教国でない日本では毎年行われる、「お盆」が挙げられます。考えてみれば、冠婚葬祭の行事の中には、先祖から受け伝わってきた多くの伝統・慣習、それに宗教が関係していることは事実であります。
 - ・皆さんの中には、家族で自分一人でだけがクリスチャンという方もおられでしょう。家には、先祖から伝わってきた宗教があります。そして、そこから伝承してきた伝統・慣習があり、不思議に思わずに、歩んできた方もおられましょう。ですから、仏壇に手を合わせることは、何も不自然なことではありませんでした。
 - ・しかし、そういう中で真の神に出会い、神を信じるようになり、そのような「行い」に意義を感じなくなりました。しかし一方では、長年続いた家の宗教・伝統・慣習などの方向性を転換することは大変難しいものです。私たちはそのことをよく理解できると思います。
 - ・ところで皆さん。ヤコブの手紙が書かれた頃、ユダヤ人たちも先祖伝来のモーセの律法を守ることによって、人は救われると長年信じていました。それが、イエス・キリストが現れ、モーセの律法ではなく、イエスを信じることによって救われると知らされたのでした。それは教会が誕生して、まだ間がない頃でした。これは当時のユダヤ人にとって、大変大きな方向転換でした。
 - ・彼らは長年にわたり、モーセの律法を守ることで救われると信じてきました。律法を守ることを習慣づけられていた人が、「ただ、イエスを信じるだけで救われる」と知った時、いったいどうなるのでしょうか。極端に言えば、2つのことが考えられます。
 - ① 頭で「信じるだけで救われる」と分かっても、相変わらず律法を守ることことに心が向いてしまうことです。
 - ② 「信じればいいのだ」ということに傾きすぎて、今度は「行い」を軽んじすぎてしまうことです。
- 著者は、きっとその両者に心を留めてこの書簡を書いたことでしょう。
- ・しかし皆さん、これは当時の人々だけの問題ではありません。私たちの問題でもありま

す。私たちにも、同じような過ちに陥る危険性があるからです。

今回は、そのようなことを考えながら、「鏡から離れない人」と題して、みことばから学びたいと思います。 2点

大切なポイント

1. みことばを聞くだけの人

- ・1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。

1) ただ聞くだけの人

- ・著者は、この手紙の中で、「聞く」ということが、どれほど大切なことか語ってきました。しかし、みことばの朗読にただ耳を傾けるだけで十分と考えるならば、それは間違った論理で自分を欺いていると言いました。ですから実行する人になりなさい、と勧めました。みことばを聞くだけの人(注意：クリスチャンで)、次のようであると言いました。

1:23 みことばを聞いても行なわない人があるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。

1:24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。

- ・当時の鏡は、今の時代の鏡のような立派なものではありませんでした。銅や青銅を磨いた手鏡で、化粧道具として家庭で使われていました。ですから、今のよう鮮明に顔を映し出すようなものではありませんでした。それでも、のぞいた人の顔を映し出すことはできました。
- ・その鏡をのぞくと、自分の生まれつきの顔が見えました。髪の毛が乱れたり顔に疲れがでたり、あるいはなにか変なものが付いていれば、それも見えました。しかし、鏡から離れたとたんに、自分の顔がどのようであったか忘れてしまいます。
- ・みことばは心を映し出す鏡です。みことばを聞くだけの人、みことばによって欠点の多い自分の本当の姿を見せられても、すぐにそれを忘れてしまいます。正すべき点があっても、それをそのままにして立ち去るのです。

2) 自分を欺く人

- ・1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。

- ・著者は、聞くだけであることは自分を欺いていることになる、と言いました。それはどういう意味でしょうか。さらに考えていきましょう。聞くだけならば、だれにもできません。聖書を読むだけなら、読む気があれば読めます。説教を聞くことも、ただ聞くだけならば、「ごもつともです！」と言い、その場かぎりで終わります。
- ・しかし、何度神のみことばに触れても、間違いを知らされても、ただ聞くだけで終わらせてしまうならば、結局は自分で自分をだましていうわけです。
- ・人は他人に(あるいはサタンに)、だまされるわけではありません。自分自身にだまされる

のです。私が私をだますのです。本当はどうあるべきか、神の光に照らされて良心で分かっているのに、それに従わないことは自分をだましているのです。ヤコブはそういうことにならないように、と勧めています。

ここにヤコブの強調点があると思います。

- 「欺く」とは、じつにきびいしい言葉です。そこには真実がありません。神の光に照らされ、心で分かっているのに、神のみことばに従わないならば、正直ではないのです。欺く人とは：
 - ① 神のみ心が示されても、従わないならば神を欺く人です。
 - ② 神のみ心が示されても、従わないならば兄弟姉妹を欺く人です。
 - ③ 神のみ心が示されても、ならば自分を欺く人です（不正直）。
- ですから、著者はきつい言葉を用いて、「自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」(1:22)、と命じているのです。そこで「みことばを実行する人」になるよう勧めました。

2. みことばを実行する人

- 1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。

1) みことばは完全な鏡

先ず覚えなければならないことは、みことばは完全な鏡であることです。

1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。

- 「完全な律法」、「自由の律法」とあります。これはモーセの律法ではありません。キリストの律法です。「完全な律法」と呼ばれるのは、それは完全で神の最終的な啓示であるからです。また「自由の律法」と呼ばれるのは、それがユダヤ人にとってはモーセの律法からの解放、そして全ての異邦人信者には罪と死からの解放をもたらすからです。

- 聖書は、みことばを実践するなら自由があると言います。ヨハネ福音書

8:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

ローマ人への手紙

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

- みことばの鏡は、私たちの罪や欠点を映し出します。その鏡を一心に見つめて離れない人（つまり、常にみことばという鏡をのぞき込んでいる人）は、すぐに忘れる人にはならないで、みことばを実行する人になります。そういう人は、将来祝福されます。つまり祝福が自分にくるのです。
- ここで教えられる点は、私たちの地上生活は、神のみことばへの従順にかかっているということです。その人は、岩の上に建てた人が受ける祝福を受ける人に、たとえることができます。マタイ福音書

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

2) 自分自身の中に実行する

- ここで、少し考えてみましょう。

1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。

「実行する」というと、一般的に外に向かって何かを行うという感じを受けます。例えば、良いこと（人助けになり、人に喜ばれること）をすること、それが「行い」（実行）です。教会でも、家庭でも。また職場でも、良いことを行うならば、大歓迎されるものです。

- しかし、ここで大切なことは、「実行する」とは内面的な事柄でもあると思います。外に現れる行動において実行することも大切ですが、それ以上に自分自身の中において実行することが大切なのです。そうすれば、外側の行動はそれについてくるものだ、言えましょう。

- 具体的に言えば、次のような事柄があります

① 一例あげるならば、私たちが共に覚えてきた「怒り」です。怒りは神のみわざの前進にブレーキをかけてしまいます。その怒りを捨てることも、「みことばを実行する」ということの大切な一例です。

- もし、私たちの中で「ねたみ」にも似た怒りを持っている人がいるとするならば、神はそれを捨てなさい、と言われていました。それを捨てない限り、神の祝福がないのです。
- また、周りの人に対する苛立ちや、やりきれないような怒りを覚えている人がいるとするならば、この神の中で神を仰いでください。神が私たちにどれほど忍耐しながら見てくださっているかを、思ってください。周りの人がどんな人であっても、神はその苛立ちを捨てるようにと、言われているのです。

② あるいは、ヨナのように、神が自分に与えてくださった立場や持ち場を、不満に思う、そういう怒りを持っている方はいないでしょうか。神はヨナを力強く用いたいと願っていました。しかし、彼の中のそういう怒りが、神の御心を痛めてしまいました。

③ もし、私たちの周りに（家族の中でも、学校でも、職場でも、教会でもどこでも構いませんが）、あなたの助けを必要としている方がいて、神が「あなたが手をさしのべてあげなさい」と言われているのに、傍観者のように腕組みをして、「私はそんなことはやれない。それをやりたくない。」という理由をつけて、手をこまねいているならば、そういう思いを捨てなさいと、言っているのです。

- ・私たちは、そういう問題を良心に照らしてみても、分かっているならば、みことばに従うべきです。それを聞くだけで、素直に受け入れないならば、みことばに従わないならば、私たち自身にとっても幸ではありません。神の栄光が現されること、神の義が実現されることにブレーキとなります。

- ・では、そうすればよいでしょうか。

1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。

➡ 「日々のデイポーション」に鍵があります。

イエス（みことば）を一心に見つめ離れない人は、

「忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。」

- ・神はみことばを与えてくださいました。そして魂を救い、この世の光としてもちいたいと願っておられます。ですから、私たちはすべ手の汚れ、悪を捨て去って、神のみことばに従順に生きようではありませんか。

ま と め

主 題：「鏡から離れない人」

—祝福される秘訣—

- ・今日、私たちは神のみことばをいただきました。大変、大切なことを学びました。それは、みことばを実行する人になる道です。著者は、みことばをただ聞くだけの者であってはいけない。実行する人になりなさい。と命じました。
- ・どうすれば、みことばを実行する人になれるのでしょうか？
自力では、到底不可能なことは明らかなことです。しかし、神は助けをくださいます。みことばを実行する秘訣は、「鏡から離れない」ことです。
鏡は私たちを映し出す者ですが、みことばは私たちの心を映し出します。
神の祝福を受ける人は、「**完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人**」(1:25)です。
- ・次は最後のまとめのみことばです。
1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはけません。

* God bless you!